

# 意外性のある空間

経験的認識による距離認識のズレ

指導教員 吉松秀樹教授 印

8AEB3238 増井 裕太

## 1. 銀座での路地体験

銀座を歩いていてふと隙間を見た時、突き当たりの先に道があると感じたが、先へ進むと行き止まりであった。実際の空間が想像した空間と異なる、予想外の体験に興味を持った (fig.1)。

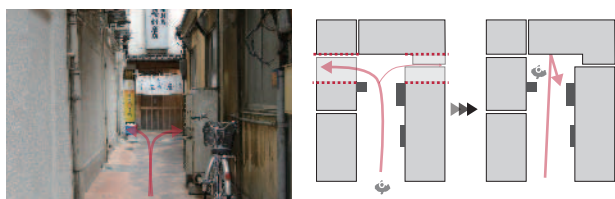


fig.1 予想外を感じた路地

## 2. 分析 - 予想外の体験 -

銀座の路地では路上に飛び出している様々な物によって、奥行きが輪郭線が隠蔽されて存在しない奥行きを想像し、予想外が起こる (fig.2)。そしてゴールデン街では隙間と隙間に似たエントランスが入り交じる事で、経験による予想外が起こる (fig.3)。他の都市では暗さや高低差により先が見えない事で予想外が起こる (fig.4)。

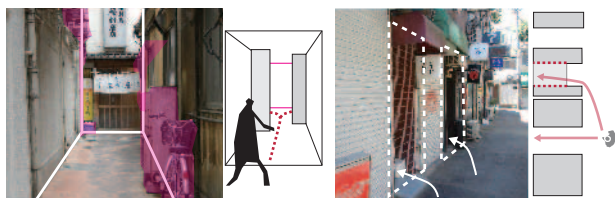


fig.2 隠蔽による予想外

fig.3 経験による予想外

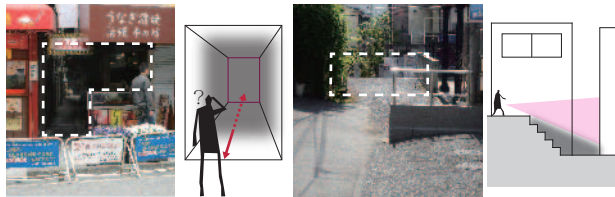


fig.4 見えないことによる予想外

## 3. 分析 - 予想外の体験 -

全体の一瞥できる空間は、先の空間との距離が把握できてしまい、認識距離と実際距離の間に差はない。予想外の体験をした路地では、先の空間が隠蔽されている事によって認識距離と実際距離の間に差が生まれる。実際の空間が想像したものとなり、空間の距離認識がズレる意外性に興味がある (fig.5)。

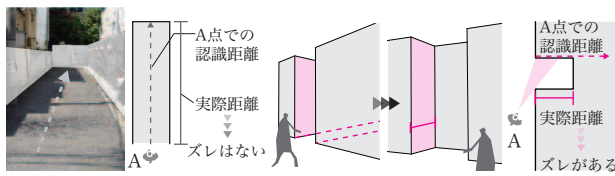
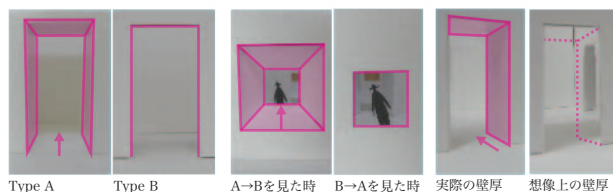


fig.5 距離認識のズレ

## 4. 経験的認識による距離認識のズレ

都市での予想外の体験は距離認識のズレという事を分析から得た。そこで、空間同士の距離の指標となる壁厚に注目する。分析から得た視覚的な隠蔽を壁厚に使い、空間体験に経験的な認識を用いる事で、距離認識にズレを与える (fig.6)。



Type A

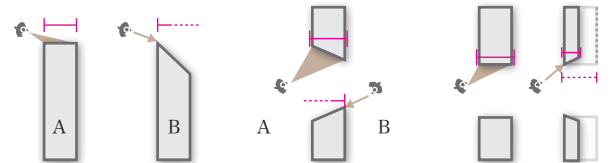
Type B

A→Bを見た時

B→Aを見た時

実際の壁厚

想像上の壁厚



壁を斜めにカットして、正面から見た際に壁厚が隠蔽される事で、距離が捉えにくくなる。

AとBは壁厚が見えるため距離を感じる。B→Aは壁厚が見えないため距離を捉えづらい。

壁厚を経験する事で、次の空間の壁厚が捉えにくい時も、経験的に同じ壁厚を認識する。

fig.6 距離認識のズレの生成

## 5. 意外性のある空間

距離認識のズレによるモデルを住宅に応用する。部屋同士の実際の距離と認識上の距離にズレを与えることで、部屋同士を厚い壁で隔てる事なく、物理的には近いが認識的には遠く感じるようにプライバシーを調節する事が出来る。外壁にも応用することで、外部と内部でもズレが生じ、同様の効果が得られ、様々な意外性を感じる空間となる (fig.7)。



AからBを見る

BからAを見る

壁の薄さを経験して、先の開口部の壁厚も同様であり空間同士が近いと感じる。リビングを近く感じているが実際距離は遠いという意外性を感じる。

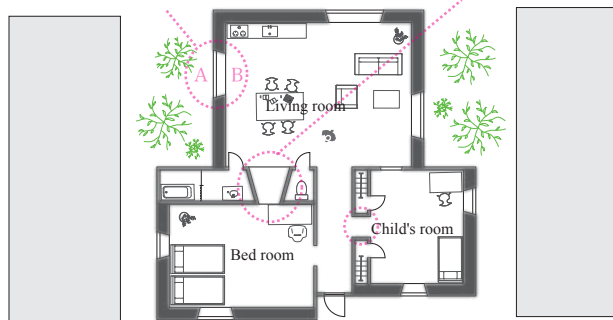


fig.7 意外性のある空間